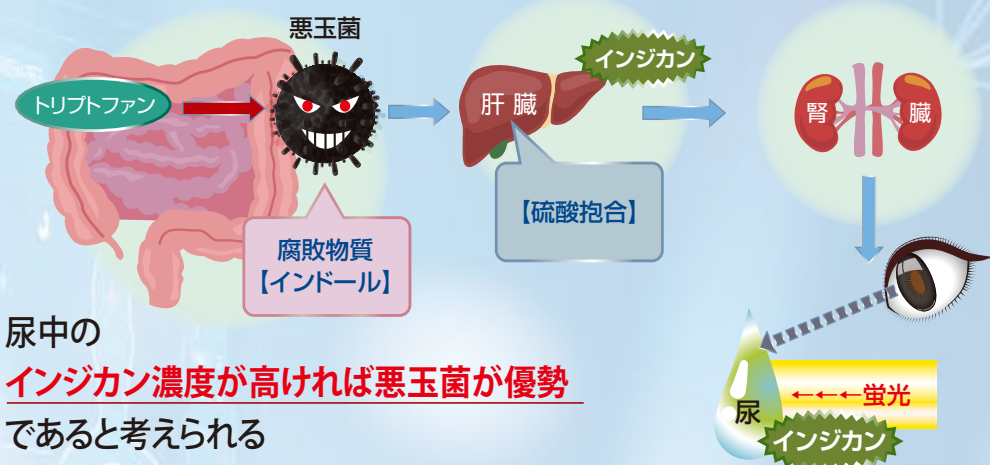


腸内環境の評価の原理



尿中の
インジカン濃度が高ければ悪玉菌が優勢
であると考えられる

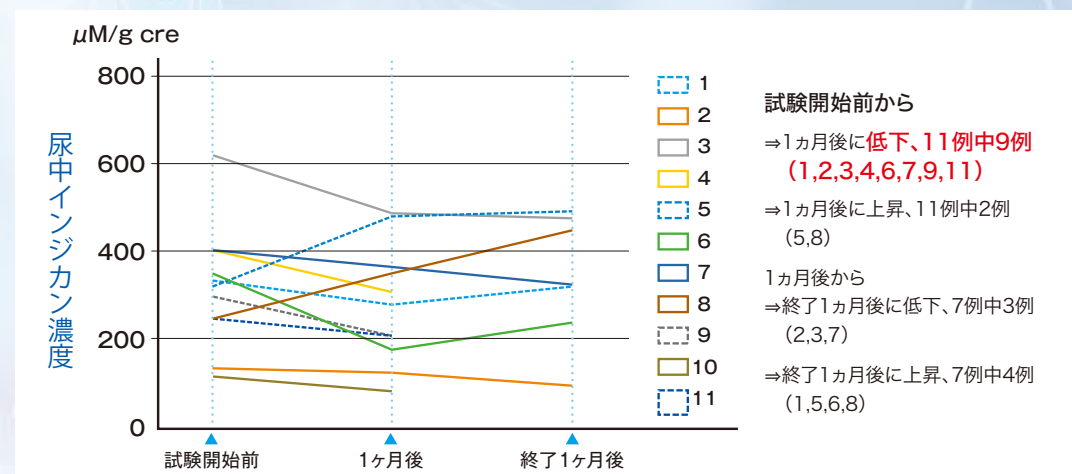
体内水素原子発生剤

ソレザウス®

SOREZAUS®

腸内細菌叢の改善例 (於:日本先制臨床医学会第5回学術大会、名古屋木村病院院長:木村衛先生のご講演資料より抜萃)

成績: 腸内環境



試験開始から1ヶ月で殆どの被験者に改善が見られます。また、服用をやめて1例は、そのまま良好な状態を継続しましたが、多くは再び悪化していますので、もう少し継続する必要があったと考えられます。
この臨床研究からソレザウス®が腸内細菌叢の健全化に対し有効に働くことが証明されました。
なお、この研究結果は国際的な医学雑誌「Nutrients」2021年10月号に掲載されました。(下記)
Nutrients 2021, 13(10), 3326; doi:10.3390/nu13103326

生体内の酸化ストレスを正確に評価するには、8-OHdG 尿検査が有効です。

遺伝子DNA中のグアニン塩基は活性酸素の作用により酸化損傷を受けます。8位の炭素が酸化されることにより、8-ヒドロキシデオキシグアノシン(8-OHdG)が生成されます。遺伝子DNAが修復される過程で8-OHdGは、細胞外に排出され、

さらに血液を経て尿中に排泄されます。また8-OHdGは比較的安定な物質で、生体内で代謝や分解されることなく尿中に速やかに排泄されることから、活性酸素による生体損傷を鋭敏に反映する優れたバイオマーカーとされています。

特定非営利活動法人国際健保協会

水素原子臨床研究会

〒105-0022 東京都港区海岸1-2-3 芝離宮ビル21階

<http://www.imsa.or.jp>

お問い合わせメール: info@imsa.or.jp

TEL.03-5403-6341 FAX.03-5403-6441

SOREZAUS®-ソレザウスは、野田製薬株式会社の登録商標です。

特定非営利活動法人国際健保協会

水素原子臨床研究会

体内水素原子発生剤

新しい健康戦略の始まりです

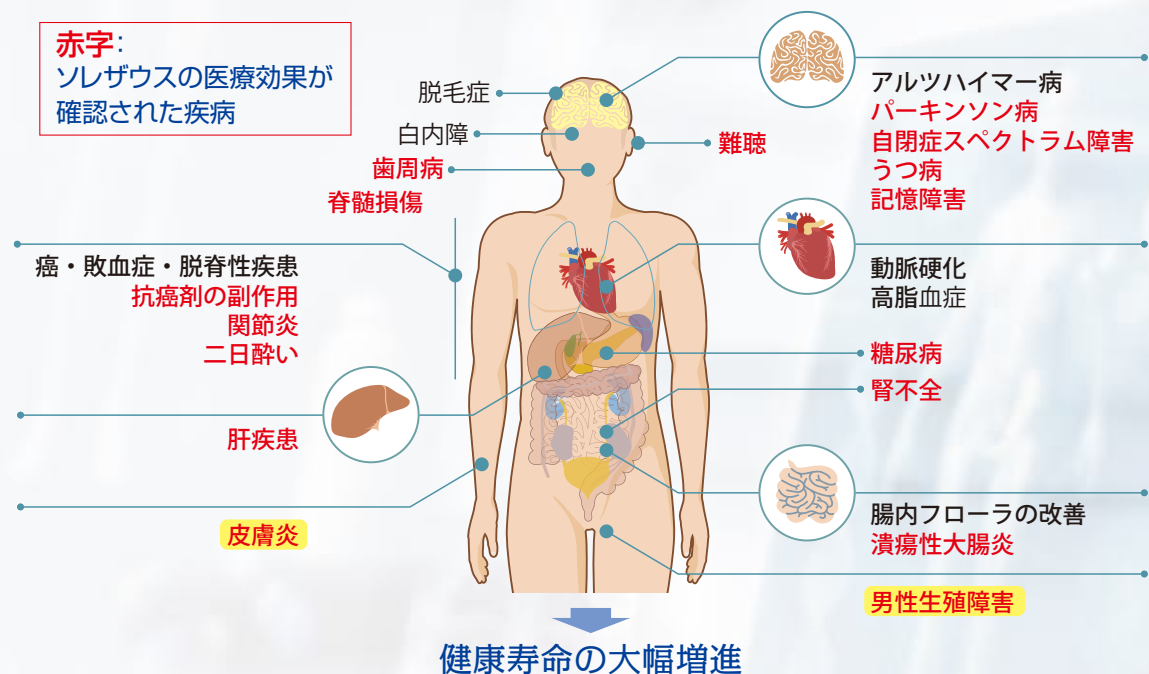
対症療法から先制医療への転換を可能にします。

体内での水素原子発生

水素が健康維持に有用で、特に抗酸化作用があり細胞の酸化ストレスを軽減することは広く知られているところです。また、水素が炎症や細胞死を抑制することが報告されており、これらの効果によって、慢性疾患の予防や改善に期待が持たれています。

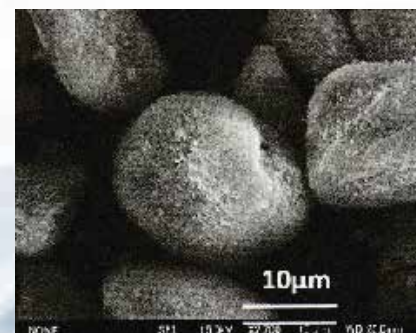
ソレザウスは経口投与で、体内で水素を発生する画期的な製品です。例えば、1gを投与した場合、腸内で700mL以上の水素を20時間程度持続的に発生させます。発生した水素は金属原子を含むタンパク質に捕獲され、発生した全ての水素が効率よく腸から吸収されて体内を循環し、ミトコンドリアにまで到達してヒドロキシルラジカルを消滅させると共にあらゆる組織の正常化に働きます。副作用は報告されていません。

■酸化ストレス性の疾病とソレザウスの効果が観測された疾病■



ソレザウスの形状と安全性

活性シリコン微粒子が凝集して100nm程度の凝集体を形成しているため、血管に侵入することはなく、安全性試験でも異常は認められていません。水素発生終了後には、この微粒子は便と共に排出されます。



ソレザウスの走査顕微鏡(SEM)写真



水素はヒドロキシルラジカルを選択的に消滅させます。

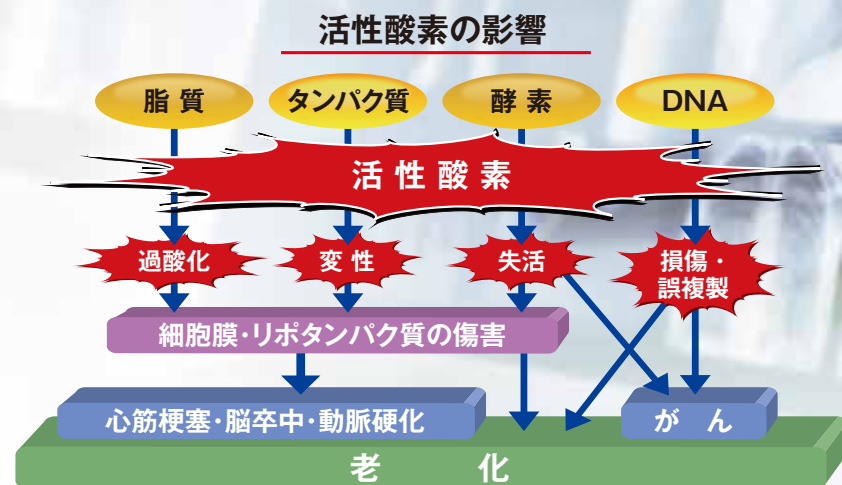
酸化ストレス性の疾病である、がん、糖尿病、高血圧といった生活習慣病を防止するには、還元剤である水素を体内に多く存在させヒドロキシルラジカルを消滅させることが有効であることは多くの文献で報告されています。しかし、水素水では水の飽和水素濃度が1.6ppmと低いために含有される水素は1Lで気体換算18mLに過ぎず、常に

体内で発生するヒドロキシルラジカルを消滅させることはできません。また、ポリフェノール、ビタミンC、ビタミンEも抗酸化作用がありますが、これらを常時多量に体内に存在させることは不可能に近い上、過酸化水素やスーパーオキシドアニオンラジカル等の有用な活性酸素まで消滅させるため、免疫力の低下などの弊害が起きる可能性があります。

●活性酸素の危険性と活用

ヒドロキシルラジカルは活性酸素中、最も高い酸化力を有しており、DNA、RNA、脂質等を酸化(酸化ストレス)して、脂質過酸化、DNA変異、蛋白質の変性、酵素の失活をもたらすので様々な疾病や老化亢進につながっています。

しかし一部の活性酸素は、免疫に利用され人体を守る役割も担っています。



活性酸素が発症に関与する病気(一部)

脳神経系	脳梗塞 脳出血 認知症 てんかん パーキンソン病 片頭痛
呼吸器	肺炎 肺気腫 慢性閉塞性肺疾患 気管支喘息
循環器	心筋梗塞 狭心症 動脈硬化 心房細動 脂質異常症
消化器	逆流性食道炎 胃潰瘍 潰瘍性大腸炎 クロウン病 肝炎 肝硬変 膵炎 ベーチェット病
内分泌系	糖尿病
アレルギー	花粉症 アトピー性皮膚炎 気管支喘息
支持組織	関節リウマチ 膠原病 変形性関節症
がん	大腸癌 及び 癌全般
口腔生理	歯周病 口臭症
その他	手術後 食中毒 放射線障害 化学物質過敏症